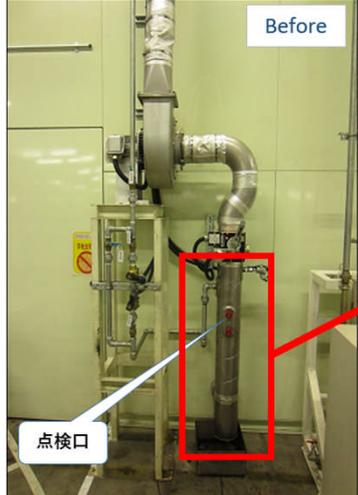
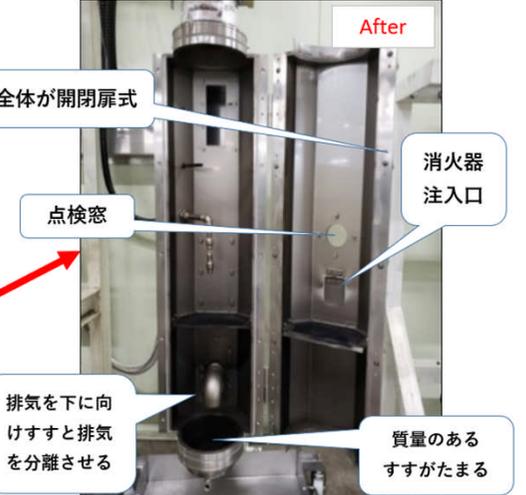
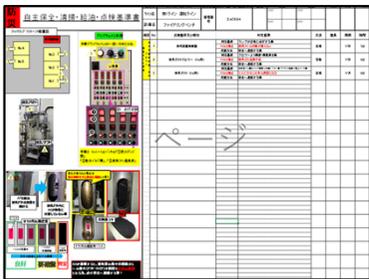


1. 完成エンジン領収運転台 排気ダクト小火発生と対策事例

※領収運転 = 製造ラインで組立てたエンジンが出力、排ガス等の要求性能を満たしているかを確認するための試験

	項目	内容	略図
1	発生状況	領収運転台を稼働時に、作業者が排気ダクトからの煙と炎を確認。 消火器による初期消火後に設備に付帯するガス系消火設備を手動起動させ鎮火。	
2	出火原因	排気ダクト内に堆積したすすにバックファイアにより発生した火種が引火したと推測。	
3	出火原因調査	燃焼3要素の一つ、ダクト内のすすの堆積量について各運転台を調査。 ↓ エンジンの種類、設備仕様によって、ダクト内のすすの堆積量が異なることが判明。	

1. 完成エンジン領収運転台 排気ダクト小火発生と対策事例

	項目	内容	略図	
1	対策 (ハード面)	1) ダクトの仕様を変更 ①全体扉化 → 点検清掃の簡易化 ②点検窓設置 → 随時確認可能 ③散水ノズル、センサーの維持管理簡易化 ④消火器注入口設置 → 消火対応 ⑤排気を下方に向ける →すすだまりを作り、散水にてパンに流し、 随時の清掃を可能にした。(月/1回)	 <p>Before</p> <p>点検口</p>	 <p>After</p> <p>全体が開閉扉式</p> <p>点検窓</p> <p>消火器注入口</p> <p>排気を下に向けずと排気を分離させる</p> <p>質のあるすすがたまる</p>
2	対策 (ソフト面)	1) 設備点検基準書の見直し ※ダクトの仕様変更により、 ダクト内、散水ノズルの詳細な点検が可能となった 2) 清掃周期の見直し → 定期ではなく点検結果に基づいて実施 ※生産状況等のすす堆積量の変化に対応 3) 訓練の実施 (排気ダクトの小火を想定)		

2. 防災コンサルタントによる防災リスク調査（年1回）

専門的な視点で、リスクの洗い出し、設備等の維持管理状態の確認、改善提案をして頂き、客観的な根拠をもとに防火・防災対策を推進。

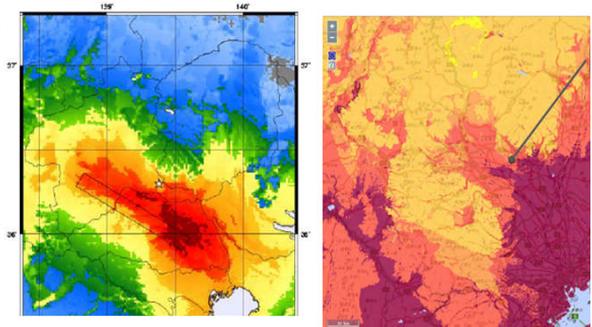
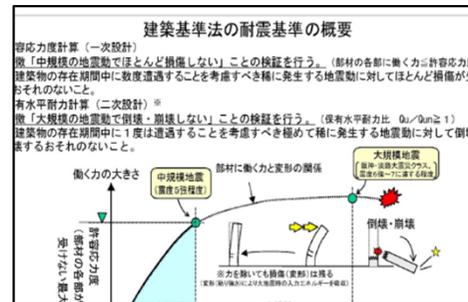
	火災予防 改善提案内容事例	指摘時	対策後
1	防火シャッターの閉鎖障害を解消。 		
2	危険物の管理状況を見直し		 <p>※扉付きに変更</p>

2. 防災コンサルタントによる防災リスク調査（年1回）

専門的な視点で、リスクの洗い出し、設備等の維持管理状態の確認、改善提案をして頂き、客観的な根拠をもとに防火・防災対策を推進。

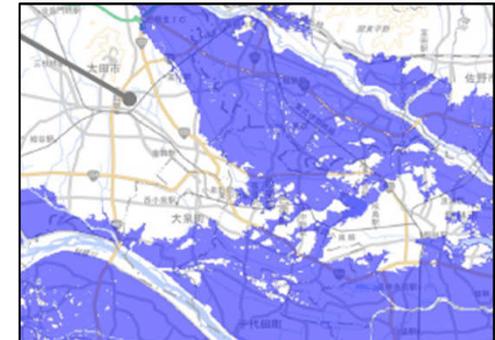
・地震対策

地震シミュレーション等による予想損害額の算出。
過去災害の分析結果等により、地震対策を推進



・水災害対策

ハザードマップ、地点別浸水シミュレーション等
をもとに、社内の浸水予想、土砂災害リスク
を洗い出し、水災害対策を推進



画像は国土交通省国土地理院HPより
<https://www.gsi.go.jp/top.html>